

安城市亀塚遺跡でほぼ完形の^{たてぐし}豎櫛が出土

亀塚遺跡の概要

遺跡は安城市、碧海台地東縁の崖下を南流する鹿乗川^{かのりがわ}沿いの沖積低地の微高地に立地し、標高は亀塚遺跡 23Aa 区の旧河道の底部で約 6m である。この遺跡は鹿乗川流域遺跡群（北群）の一部を構成しており、特に亀塚遺跡は鹿乗川（旧河道）と台地の開析谷が合流する地点に位置する。

今年度の発掘調査は鹿乗川の改修工事に先立って実施され、今年度調査区の南部にあたる Aa 区では弥生時代末期から古墳時代初頭の旧河道が、その北側の調査区では同時期の^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓^{たてあなたてものと}や^{たてあなたてものと}豎穴建物跡^{たてあなたてものと}などが検出されている。

豎櫛の出土した亀塚遺跡 Aa 区の旧河道は、弥生時代末期から古墳時代初頭にかけての土器が多量に出土しているほか、地下水の湧き出る湧水層を掘り込んでいることから、木製品も良好な遺存状態で出土している。

前年度までの発掘調査では、^{どうぞく}銅鏃^{たて}や^{たて}赤彩^{たて}のある木製盾など貴重な遺物も出土しており、今年度の調査でも同様の遺物が出土することが期待されている。

※方形周溝墓：四角形の周囲に溝を配した弥生時代末から古墳時代前期に造られた墓。

※豎穴建物：地面を掘りくぼめて床とし、柱を立ててつくられた建物。

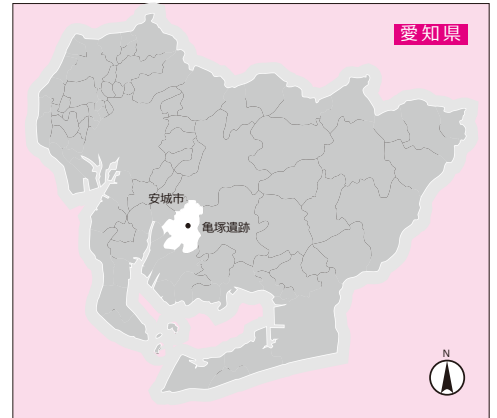
※銅鏃：銅製の矢じり。 ※赤彩：赤い顔料で装飾されていること。

豎櫛の概要

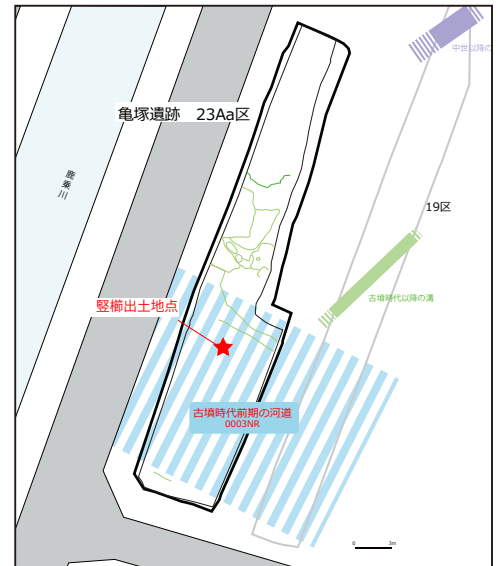
豎櫛とは、現在使われるような櫛歯が多く横に長い横櫛と異なり、比較的少数の櫛歯を持ち縦に長い櫛を指す。

古墳時代以前の豎櫛は、独立した櫛歯を糸などで結束する^{けつしき}結歯式と、一塊の板材から削り出す^{こくしき}刻歯式に分類され、前者はさらに、平行または放射状に並べた櫛歯を単純に結束する単純結歯式と、U 字状に湾曲させた櫛歯を結束する湾曲結歯式に分類される。刻歯式の豎櫛は櫛歯が太いこともあり、髪を梳くことよりも髪を留める髪飾りとしての用途が想定されている。

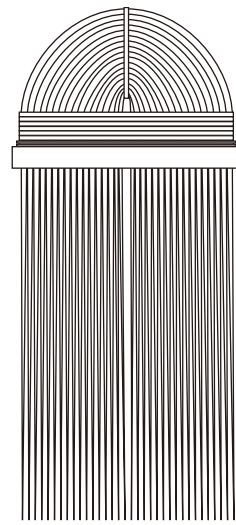
単純結歯式、刻歯式はどちらも縄文時代から出現するが、湾曲結歯式は弥生時代以降に出現するもので、愛知県内では清須市朝日遺跡での出土例が知られている。



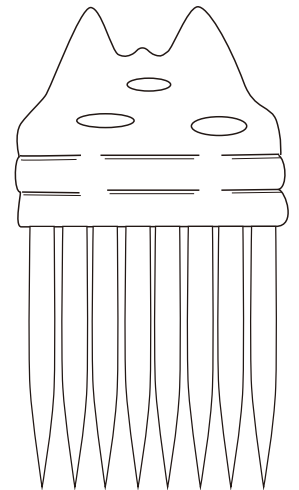
▲亀塚遺跡（安城市）の位置



▲豎櫛出土地点



▲湾曲結歯式豎櫛（模式図）



▲刻歯式豎櫛（模式図）

亀塚遺跡出土^{たてぐし}豎櫛の概要

亀塚遺跡出土豎櫛は刻歯式に分類されるもので、板材から削り出したものであり、ムネ部の一端に欠けがあること以外は完形を保っている。便宜上、ムネ部の欠けが左側になる面を前面とする。

法量は、長さ約 109mm、幅約 50mm、厚さ約 6mm で、ムネ部に透かし孔を持つ。

ムネ部は半円形に突出部の付く山部と、逆台形の基部に分かれ、どちらも線刻がなされる。山部の線刻は外形に沿うように半円形を呈し、19 条を数える。内側から 4、8、12、15 番目の線刻は陰刻^{きよしもん}鋸歯文^{*}となっており、内向きと外向きが交互に現れる。基部の線刻は、上部に平行線が 2 条、続いて破線状のものが 1 条

刻まれ、やや離れて上向きに鋸歯状の突出を持つ平行線、単純な平行線、下向きの陰刻鋸歯文が各 1 条刻まれる。山部、基部とも、表裏で文様に差はない。

線刻部には赤彩が施され、櫛歯の根本や、山部のくびれた部分の側面といった凹部にも赤色顔料が付着する。蛍光 X 線分析によってこの顔料は水銀朱であることが確認されている。

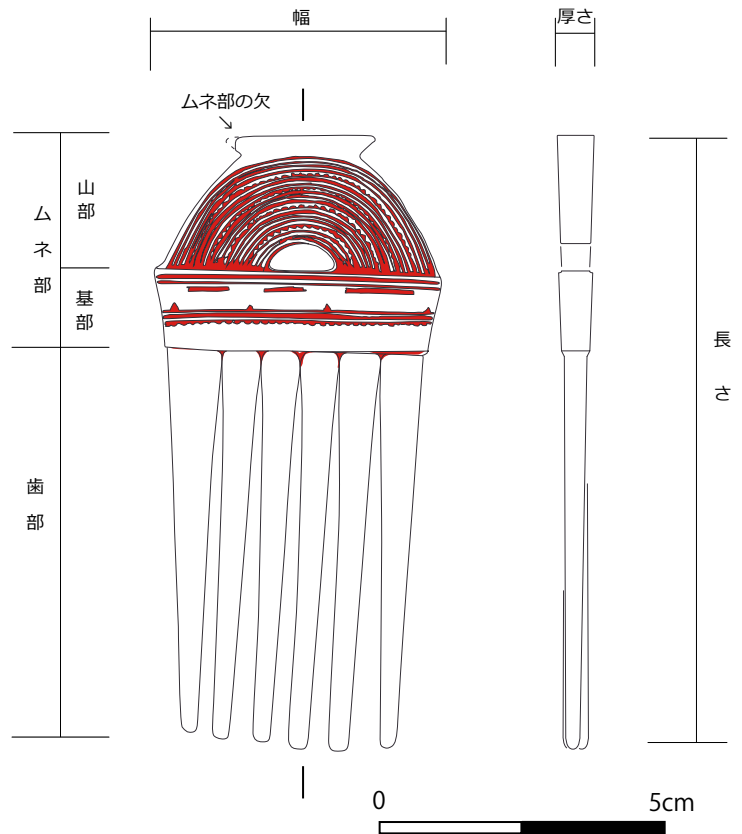
櫛歯は 6 本で、左右両端の 2 本がやや太く、中央 4 本はやや細い。櫛歯は全体的に左に向かって曲がっており、前後方向にも、左から 3、6 本目の櫛歯は裏面に向かってやや曲がり、残る 4 本は前面に向かって曲がる。櫛歯の長さにも若干の差異があり、左から 4、5 本目が長く、左端の櫛歯が最も短い。これは使用による摩耗が原因と想定される。

※鋸歯文：ノコギリ歯状のギザギザ文様を指し、陰刻とは文様部分が彫り凹められたものを指す

亀塚遺跡出土豎櫛の意義

亀塚遺跡出土豎櫛はほぼ完形を保つという点で貴重であり、それは旧河道の湧水層に埋没していたためであると考えられる。技法上では刻歯式に分類されるものであり、ムネ部の透かし孔や上端左右の突出、鋸歯文を文様に採用することは、滋賀県^{ごむら}五村遺跡や大阪府東奈良遺跡の出土例を類例として挙げることができ、弥生時代後期の特徴をよく示している。一方で、山部や基部の形状とその線刻は、櫛歯を U 字状に湾曲させ、横架材を当てて結束する湾曲結歯式の豎櫛を明らかに模したものであり、この形式は縄文時代に始まり、古墳時代に副葬品として盛行するものである。

したがって、亀塚遺跡出土豎櫛は形状、装飾に湾曲結歯式と刻歯式の両方の要素を取り込んだ類例のないものであり、今後もその位置付けの検討が必要となる、学術的にも非常に貴重なものであると考えられる。



▲遺物実測図（原寸大）

